

学習フックシート

年 組 名前

国語科 / 小学校5年

2020年6月4日付中濃版他

Ⓐ

山羊さん除草隊 美濃加茂で始動

美濃加茂市中部台の公園「さくら広場」で三日、恒例の「山羊さん除草隊」の活動が始まった。新型コロナウイルスの影響で二カ月遅れの本格始動となったが、愛らしく草をはむ姿は今年も人気を集めそうだ。

市内のぎふ清流里山公園でヤギを飼育する農業法人フルーシックが、市から委託を受けて二〇二二年度に始めた事業。除草費のカットや、ふん尿の堆肥化のメ



伸び放題の雑草を食べるヤギたち。美濃加茂市中部台で

リットがある。刈った草を焼かなくて済むため、二酸化

炭素の削減にもつながる。初日は四〜八歳の三十四匹が、柵に囲まれた斜面に放された。ヤギたちは急な傾斜を物ともせず、のんびりと歩き回り、旺盛な食欲で草を食べた。

十一月下旬まで週数回のペースで出動し、給食センターや工業団地内なども含めて計四カ所の市有地を回る。自由に見学することができ、日程と場所は市のホームページで紹介している。時間は午前八時半〜午後二時半。(渡辺大地)

Ⓑ

「山羊さん除草隊」続けて10年

わたなべ しょうじ
渡辺 祥二さん(50)



岐阜県美濃加茂市を拠点に活動する「山羊さん除草隊」を結成して十年。自治体や企業の依頼を受け、飼育するヤギたちを公園などに放って雑草を食べさせる。出動先は十力以上に広がり、ヤギを見に来る人も増えた。「活動が地域に定着してきた」と喜ぶ。

もともとは建設会社で働いていた。農業用木工事などに関わる中で未利用の農地の多さに驚き、「農業を盛り上げたい」と奮起。

この人

二〇〇五年に農業法人を設立し、日本では珍しいドラゴンフルーツの栽培などに挑戦してきた。除草隊は高齢農家のギンナン畑を管理するため、従業員提案で二匹を飼い始めたのが始まり。ヤギに任せれば、除草費用は人が行う場合の三分の二ほどで済み、環境にも優しい。現在の隊員は六十匹。「みんな働き者。人懐っこくて癒やされる」とほほ笑む。五年前から地元の小学校にもヤギを連れていき、児童が餌やりや鼓動を聞く体験教室を開いている。農業高校生と、ヤギのふんの堆肥でサツマイモなどを育て、ヤギ乳を使った特産品作りにも励む。「子どもたちが動物や農業を身近に感じ、生きる力を育んでもらえたらうれしい」(平井一敏)

(6月7日付)

